



路傍の草を緑化工へ

熊田勇斗 kumata@rontai.co.jp

ロンタイ株式会社

1. はじめに

今回『新 会員の自慢』を担当させていただくことになりました。ロンタイ株式会社製品開発課所属の熊田です。

前号で執筆された小澤信彦様、編集委員長の岡浩平先生よりご依頼をいただき、実績のない私が執筆して良いものかと逡巡しましたが、せっかくこのような機会を頂戴しましたので僭越ながらお引き受けいたしました。前々号の中村剛様、前号の小澤信彦様にならって、皆様が気軽に読みやすい文章を意識して執筆いたします。

2. 自己紹介

ほとんどの会員の皆様と初めましてになるかと思います。このコラムの趣旨が会員の紹介でもあるとのことですので自己紹介からさせて頂こうと思います。

私は大阪南部にある泉佐野市というところに生まれました。大阪にありながら漁業と水ナス、キャベツ、玉ねぎなどの農業が盛んな地域で、沿岸部には西日本における世界の玄関口である関西国際空港があります。海と山が近く、幼いころから自然と関わりながら過ごしました。大阪生まれではありますが、子供のころは田んぼのオタマジャクシを捕まえたり、用水路でザリガニを釣ったり、川でカメやカニを捕まえたりと、都会の喧騒とはほど遠い自然豊かな環境で育ちました。高校はだんじり祭りで有名な岸和田市の高校へ進学しました。実は岸和田市以外にもだんじりはあり、私も幼少期からだんじり曳行に参加していました。今は見物する側になってしまいましたが、太鼓の音を聞くと今でも心が躍ります。すごい迫力ですので是非一度見て頂きたいです。

高校卒業後は信州大学農学部森林科学科へと進学しました。この頃は漠然と自然と関わりながら学びたい、出来るだけ現場の近くで学びたいと考えており、演習林が近く実習が多くある信州大学を選択した記憶があります。

大学では森林生態学研究室に所属し、ヒノキの成長に関する研究をしていました。大学生の頃は緑化というよりは山全体に興味があり、授業や研究を通じて多くの学びを得ました。植物に関わる仕事がしたい、自分が学んできたことを仕事にも活かしたいと思い、卒業後 2013 年にロンタイ株式会社へ入社し、営業として広島支店、仙台支店、関東支店と渡り歩き、2021 年より現在の製品開発課に所属しております。

現場へと出て汗をかくことをモットーとしており、植生調査などの現地調査はもちろん、冒頭の写真のように自社製品



の施工を自分で行うこともあります。

3. ロンタイについて

私が勤務するロンタイ株式会社は 1957 年に鉄工業会社として設立され、1963 年より現在の事業である緑化資材製品の製造・開発に着手しました。1969 年には社名にもなっているロンタイ（人工筋芝）を発売し、その後多種多様な植生シート、マットを開発しております。人や社会の安全と自然環境保護の両立を目指し、法面緑化製品を専門に製造販売しております。また前身が鉄工業という事もあり、自社製品の製造機械は自社にて設計製造している珍しい会社です。製品製造のみに留まらず、法面工事も請け負っており、私自身も営業時代には現場での施工や施工管理を経験しました。

近年は、地域性種苗や国内産種子を活用したネイチャーボジティブに貢献できる緑化工法に力を入れております。国内産種子については数種ではありますが在庫もありますので、詳しくは弊社ホームページ²⁾を見て頂ければと思います。

4. 日本緑化工学会との関わり

当学会へは現在の製品開発課に所属して以降、大会への参加等を通じて関わるようになりました。学部卒で大学院に進学しなかった私は学術的な場自体がほぼ初めての経験であり、新鮮な気持ちで初めて大会へ参加したことをよく覚えています。その後、生態・環境緑化研究部会が主導されている阿蘇小規模崩壊地復元プロジェクト¹⁾へは 2022 年度より種子採取と活用の部分で参加させて頂き（写真-1）、現在も小規模崩



写真-1 阿蘇にてススキを採種する様子



写真-2 阿蘇地域にて地域性種苗を使用した植生マット



写真-4 葉っぱを指さす息子 関西万博にて



写真-3 施工後約 10 ヶ月 ヨモギとススキが繁茂

壊地の復元と地域性種苗の活用（写真-2, 3），阿蘇の草原保全や地域の方々の産業振興等を目指して関わらせて頂いております。

また、斜面緑化研究部会第 18 期幹事として部会の活動にも参画しております。

技術職に異動してから早くも 4 年が経ちました。まだ当学会誌への投稿経験はありませんが、現在取り組んでいる案件をまとめて技術報告として発表し、緑化工技術および日本緑化工学会の発展に貢献したいと考えています。

5. 最近の興味 路傍の草

私にはもうすぐ 2 歳になる息子がいます。最近家の近くを散歩したり、公園で遊んだりするのですが、植物を見つけると「はっぱ！」と元気に教えてくれます。おそらく私が植物をよく見ているせいなのですが、徐々に葉の違いが分かってきたのか「これは？これは？」と植物の名前を聞いてくれます。これまで何気なく「タンポポだねー」とか「猫じゃらしだねー」と応えていたのですが、毎回聞かれるたびに、これは何タンポポなのだろうか、そもそも日本には何種類のタンポポがあるのだろうか、エノコログサは穂が出ていなくても見分けることが出来るのだろうか、など色んな疑問が湧いて

きました。特に草本植物の見分け方は奥が深く、日々新たな発見があり興味は尽きません。

近年は生物多様性保全やネイチャーポジティブに関する話題が多くなり、これまで注目されていなかった「その辺の雑草」が注目されているように感じています。生物多様性保全に配慮した緑化工法としては大きく分けると「表土利用工」「自然侵入促進工」「地域性種苗利用工」となりますが、特に「地域性種苗利用工」は採種やその後の品質管理に課題があり、採用される機会が少ないように思います。私自身がかつと知識を身に付け、身近な植物を利用できるような技術を作っていきたいと思います。

少し真面目な話になりましたが、忙しくなると考え事ばかりで路傍の草に目を向ける余裕はなかなか持てないものです。時には心にゆとりをもち、のんびりと散歩しながら草花に目を向ける時間も大切にしたいと思います。

6. おわりに

このような内容で良いものか不安を感じていますが、このコラムを通じて私の人となり伝われば幸いです。

今回の執筆は自分自身を振り返る良い機会となりました。思い返せば、幼少のころから自然を愛し、それが今の自分に繋がっていることを再認識できました。これからも法面緑化資材専門メーカーの一員として知識と経験を深め、より広い緑化の知識を付けていきたいと考えています。会員の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

また、法面緑化や植生マットについてお手伝いできることがありましたら、是非お気軽にお声かけ下さい。

参考資料

- 1) 日本緑化工学会. “熊本・阿蘇地域における活動” 日本緑化工学会ホームページ.
https://www.jsrt.jp/tech/ASO_project.html (参照: 2025 年 7 月 4 日).
- 2) ロンタイホームページ. <https://www.rontai.co.jp/>